クライアント導入設定ガイド

第十版 2023 年 1 月 11 日

株式会社 ビービーシステム

Copyright (c) 2011-2023, Big Bang System Corporation. All rights reserved.

本書に記載された事項で発生したいかなる事態もその責務を負いません。また、本書は作成日時点での情報をもとに記述しています。(株)ビービーシステムは予告なく本書の内容を変更する事があります。
その他、本書に記載されているサービス名、製品名または会社名は、各社の商標または登録商標です。本書では TM マーク、R マークは明記していません。

目次

はじめに 1
1. システム要件 2
1.1 AddressLook Premium のソフトウェア要件 2
1.1.1 Exchange サーバー 2
1.1.2 クライアント Outlook の場合 2
1.1.3 クライアント Outlook on the web (OWA)の場合 2
1.1.4 ポップアウト機能を利用する場合 2
1.2 AddressLook Outlook アドインのソフトウェア要件 3
1.3 AddressLook ブラウザ版のソフトウェア要件 3
1.3.1 Microsoft Edge の場合 3
1.3.2 Mozilla Firefox の場合 3
1.3.3 Google Chrome の場合 3
1.4 ハードウェア要件 4
1.5 ネットワーク要件 4
1.5.1 AddressLook Online の場合 4
1.5.2 自社に AddressLook サーバーを構築する場合 6
1.6 使用可能な認証情報 6
1.6.1 AddressLook Online を使用する場合 6
1.6.2 AddressLook Online で ADFS 認証を使用する場合 7
1.6.3 AddressLook Online で SAML 認証を使用する場合 7
2. 管理者設定 8
2.1 AddressLook 管理設定 8
2.2 利用ドメインの設定 12
2.2.1 フォーム認証の場合 12
2.2.2 ADFS 認証の場合 13
2.2.3 SAML 認証の場合 15
2.3 ログインユーザー設定 16
2.3.1 ユーザー作成 17
2.3.2 ユーザー編集 18
2.3.3 ユーザー削除 20
2.4 準備 21
2.4.1 Exchange サービス用アカウントの用意 21
2.5 Exchange アカウント設定 25
2.5.1 アカウント作成 25
2.5.2 アカウント編集 26

2.5.3 アカウント削除 27
2.6 Exchange への接続ユーザー設定 28
2.6.1 管理者ユーザー作成 29
2.6.2 管理者ユーザー編集 30
2.6.3 管理者ユーザー削除 31
3. AddressLook Premium の設定 33
3.1 アドインの追加 33
3.1.1 アドインの有効化 33
3.1.2 ユーザー既定値の設定変更 36
3.2 アドインの無効化 37
3.2.1 ユーザー既定値の設定変更 39
3.3 アドインの削除 41
4. Outlook アドインの導入・展開 43
4.1 ダウンロード 43
4.2 Outlook アドインのインストール 47
5. Outlook アドインの設定 49
5.1 Outlook アドイン設定方法 49
5.2 サービス URL の設定 50
5.3 サービス認証方法の設定 51
5.3.1 フォーム認証を使用する 51
5.3.2 フェデレーション認証を使用する 52
5.3.3 SAML 認証を使用する 54
5.3.4 Windows 認証を使用する 58
5.4 プロキシ設定 59
6. AddressLook ブラウザ版の設定 61
6.1 サービス認証方式の設定 61
6.1.1 フォーム認証を使用する 61
6.1.2 ADFS 認証を使用する 62
6.1.3 SAML 認証を使用する 63
6.2 コピーボタンの利用 65
7. Outlook アドインの削除 66

はじめに

本ガイドは、AddressLook クライアントとなる AddressLook Premium、クライアントモジュール版(Outlook アドイン)、ブラウザ版の導入や設定について記載しています。

AddressLook Premium は、Outlook と Outlook on the web (OWA) の両方から使用できる、クライアント PC へのインストールが不要なアドインです。
Outlook アドインは、Outlook から使用できる、クライアント PC にインストールするアドインです。
ブラウザ版はブラウザ上で使用できる Web アプリケーションです。

各クライアントの具体的な操作方法については、別紙「AddressLook 利用者ガイド」をご覧ください。

※最新の情報は、弊社サポートページ(https://support.bbsystem.co.jp/)をご参照ください。
※本ガイド中の画面は作成時点のものです。

1. システム要件

各種アドインのシステム要件について説明します。

1.1　AddressLook Premium のソフトウェア要件

1.1.1 Exchange サーバー

AddressLook Premium を動作させるには、以下のソフトウェアコンポーネントが必要です。

- Exchange Online (Microsoft 365)、Exchange Server 2013 SP1、Exchange Server 2016、Exchange Server 2019 を使用していること

1.1.2 クライアント Outlook の場合

- Outlook 2013 SP1、Outlook 2016、Outlook 2019、Outlook for Microsoft 365 を使用していること
- Outlook には最新の更新プログラムが適用されていること
- Outlook 2016 を使用する場合、更新プログラム「KB3141453」を適用済みであること
- 最新のルート証明書を導入済みであること(AddressLook Online を使用する場合)

1.1.3 クライアント Outlook on the web (OWA)の場合

以下のいずれかが使用可能である必要があります。

- Microsoft Edge、Mozilla Firefox、Google Chrome の最新バージョン
- 最新のルート証明書を導入済みであること(AddressLook Online を使用する場合)

1.1.4 ポップアウト機能を利用する場合

AddressLook Premium でポップアウト機能を利用するには、以下のいずれかが使用可能である必要があります。

- Windows 10 バージョン 1903 以降、または Windows 11 と Microsoft 365 サブスクリプション版 Office (バージョン 16.0.11629 以降)
- リテール版 Office 2016 以降（バージョン 1602 (ビルド 6741.0000）以降）と Microsoft Edge (レガシー版)
- リテール版 Office 2016 以降（バージョン 1602 (ビルド 6741.0000）以降)、Microsoft Edge (Chromium 版）と Microsoft Edge WebView2
- Microsoft Edge、Mozilla Firefox、Google Chrome の最新バージョン

1.2 AddressLook Outlook アドインのソフトウェア要件

Outlook アドインを動作させるには、以下のソフトウェアコンポーネントが必要です。
これらのソフトウェアは、Outlook アドインを導入する前にインストールします。

- Windows 10、Windows 11 を使用していること
- .NET Framework 4.6 以降が導入済みであること
- 最新のルート証明書を導入済みであること(AddressLook Online を使用する場合)
- Outlook 2013、Outlook2016、Outlook 2019、Outlook for Microsoft 365 を使用していること
- Microsoft Visual Studio 2010 Tools for Office Runtime を適用済みであること
  (https://www.microsoft.com/ja-JP/download/details.aspx?id=56961)

1.3 AddressLook ブラウザ版のソフトウェア要件

以下のいずれかが使用可能である必要があります。

- Microsoft Edge、Mozilla Firefox、Google Chrome

1.3.1 Microsoft Edge の場合

AddressLook ブラウザ版を Microsoft Edge で動作させるには、以下のソフトウェアコンポーネントが必要です。

- Windows 10、Windows 11 を使用していること
- Microsoft Edge (Chromium 版) を使用していること
- 最新のルート証明書を導入済みであること(AddressLook Online を使用する場合)

1.3.2 Mozilla Firefox の場合

AddressLook ブラウザ版を Firefox で動作させるには、以下のソフトウェアコンポーネントが必要です。

- Firefox 63 以降を使用していること
- 導入する Firefox がサポートする Windows OS を使用していること
- 最新のルート証明書を導入済みであること(AddressLook Online を使用する場合)

1.3.3 Google Chrome の場合

AddressLook ブラウザ版を Chrome で動作させるには、以下のソフトウェアコンポーネントが必要です。

- Google Chrome 66 以降を使用していること
- 導入する Chrome がサポートする Windows OS を使用していること
- 最新のルート証明書を導入済みであること(AddressLook Online を使用する場合)

1.4　ハードウェア要件

前述のソフトウェアが正しく稼働できるハードウェアを使用している必要があります。

1.5　ネットワーク要件

AddressLook クライアントモジュールは、AddressLook サーバーにアクセスできる必要があります。
AddressLook クライアントは、HTTPS または HTTP で通信を行います。AddressLook サーバーの環境に応じてご確認ください。

1.5.1 AddressLook Online の場合

AddressLook クライアントからは以下の Web サイトにアクセスします。
プロキシサーバーを介してアクセスする場合、以下の URL へアクセスできることをご確認ください。

(1) AddressLook Premium を利用する場合

- www.addresslook.net 環境をご使用の場合

＊ https://www.addresslook.net/
＊ https://www.addresslook.net/svc/
＊ https://www.addresslook.net/svc2/
＊ https://appsforoffice.microsoft.com/
＊ https://ajax.aspnetcdn.com/
＊ https://telemetryservice.firstpartyapps.oaspapps.com/
＊ https://outlook.office.com
＊ https://outlook.office365.com

- hab.addresslook.net 環境をご使用の場合

＊ https://hab.addresslook.net/
＊ https://hab.addresslook.net/svc/
＊ https://hab.addresslook.net/svc2/
＊ https://appsforoffice.microsoft.com/
＊ https://ajax.aspnetcdn.com/
＊ https://telemetryservice.firstpartyapps.oaspapps.com/
＊ https://outlook.office.com
＊ https://outlook.office365.com

(2) Outlook アドインを利用する場合

- www.addresslook.net 環境をご使用の場合

＊ https://www.addresslook.net/
＊ https://www.addresslook.net/svc/
＊ https://www.addresslook.net/svc2/
＊ https://login.microsoftonline.com/tfp/addresslookb2c.onmicrosoft.com/ （フェデレーション認証を使用する場合のみ）
＊ https://addresslookb2c.b2clogin.com/addresslookb2c.onmicrosoft.com/ （フェデレーション認証を使用する場合のみ）

- hab.addresslook.net 環境をご使用の場合

＊ https://hab.addresslook.net/
＊ https://hab.addresslook.net/svc/
＊ https://hab.addresslook.net/svc2/
＊ https://login.microsoftonline.com/tfp/addresslookb2c.onmicrosoft.com/ （フェデレーション認証を使用する場合のみ）
＊ https://addresslookb2c.b2clogin.com/addresslookb2c.onmicrosoft.com/ （フェデレーション認証を使用する場合のみ）

(3) ブラウザ版を利用する場合

- www.addresslook.net 環境をご使用の場合

＊ https://www.addresslook.net/
＊ https://login.microsoftonline.com/tfp/addresslookb2c.onmicrosoft.com/ （フェデレーション認証を使用する場合のみ）
＊ https://addresslookb2c.b2clogin.com/addresslookb2c.onmicrosoft.com/ （フェデレーション認証を使用する場合のみ）

- hab.addresslook.net 環境をご使用の場合

＊ https://hab.addresslook.net/
＊ https://login.microsoftonline.com/tfp/addresslookb2c.onmicrosoft.com/ （フェデレーション認証を使用する場合のみ）
＊ https://addresslookb2c.b2clogin.com/addresslookb2c.onmicrosoft.com/ （フェデレーション認証を使用する場合のみ）

1.5.2 自社に AddressLook サーバーを構築する場合

AddressLook 製品を自社内に構築する場合、AddressLook クライアントから AddressLook サーバーに HTTP または HTTPS 接続できるよう、ネットワークを構成してください。

AddressLook Premium を利用する場合、AddressLook クライアントから以下の URL へアクセスできることをご確認ください。

＊ https://appsforoffice.microsoft.com/
＊ https://ajax.aspnetcdn.com/
＊ https://telemetryservice.firstpartyapps.oaspapps.com/

また、認証プロキシを使用している場合、クライアントモジュールに追加の設定を行う必要があります。設定内容については「5.4 プロキシ設定」をご参照ください。

認証プロキシについて、すべての認証プロキシ環境において評価を実施しているものではありません。
事前に評価環境などで動作の確認をお願いします。

1.6 使用可能な認証情報

AddressLook の使用者が AddressLook サーバーにアクセスする際の認証情報は、使用する AddressLook サーバーにより異なります。
AddressLook Online の場合、フォーム認証、フェデレーション認証（ADFS 認証・SAML 認証）を使用可能です。
自社内に AddressLook サーバー（AddressLook オンプレミス版）を設置する場合、Windows 認証、フォーム認証、フェデレーション認証（ADFS 認証）を使用可能です。

AddressLook Premium では、Outlook や Outlook on the web のユーザーのメールアドレスのドメイン部分が利用ドメインとして登録されていれば使用可能となります。この時、認証は行われません。
利用ドメインの登録については、「2.22.2 利用ドメインの設定」をご参照ください。

1.6.1 AddressLook Online を使用する場合

AddressLook Online では、AddressLook 用のアカウントでサーバーにアクセスします。
アカウントには、管理者用のアカウントと利用者用のアカウントがあり、使用できる機能範囲が異なります。

初回は、管理者が Online サービス事務局から発行された管理者アカウントでアクセスしてください。

管理者アカウントを使用すると、AddressLook Online サーバーから Outlook アドインや組織階層情報メンテナンスツールをダウンロードしたり、組織階層情報メンテナンスツールを使用してアカウントを追加したりすることができます。
アカウントの追加方法については、「2.3 ログインユーザー設定」をご参照ください。

1.6.2 AddressLook Online で ADFS 認証を使用する場合

AddressLook Online は ADFS 認証に対応しています。
自社に ADFS サーバーおよび ADFS プロキシサーバーを構築すると、自社内の Windows ドメインで認証した情報で AddressLook Online を使用することができます。
ADFS サーバーへの追加設定情報については、別紙「AddressLook サービス フェデレーション設定ガイド」をご参照ください。

ADFS 環境の具体的な構築方法については本書では記載しません。Microsoft 社の公開情報などを参考に構築をお願いします。

1.6.3 AddressLook Online で SAML 認証を使用する場合

AddressLook Online は SAML 認証に対応しています。
Microsoft Azure ポータルまたは HENNGE One に用意した SAML 認証情報で、AddressLook Online を使用することができます。
設定方法の詳細については、別紙「AddressLook サービス フェデレーション設定ガイド」をご参照ください。

SAML 認証の具体的な準備方法については、本書では記載しません。SAML 認証のご準備については、各製品ベンダーにお問い合わせください。

---

2. 管理者設定

全体の設定については、製品管理サイトで設定します。

2.1 AddressLook 管理設定

1 製品管理サイトを開き、管理者アカウントでサインインします。

- https://portal.bbsonlineservices.net/

2 「管理」サイトを開き、「AddressLook」を選択します。

[画面 1]

ご契約済みのサービスのみメニューに表示されます。

3　AddressLook 設定画面が開くので、各項目に必要な情報を入力し、「保存」を選択します。

- AddressLook 画面にコピーボタンを表示する
  チェックをオンに設定すると、AddressLook ブラウザ版を表示した際にコピーボタンが表示されます。
- AddressLook 画面にお気に入りを表示する
  チェックをオンに設定すると、Outlook アドインと AddressLook Premium に、お気に入りメニューが表示されます。
- ユーザーの写真を表示する
  チェックをオンに設定すると、AddressLook Premium や Outlook アドインにユーザーの写真が表示されます。
  機能を使用するためには、Exchange サーバーに接続し情報を取得する専用アカウントが必要です。専用アカウントの設定は Exchange 側の環境により異なります。以下を参照し、設定を実施してください。
  ・単一ドメイン/複数ドメインかつ専用アカウントがひとつの場合

「2.4 準備」と「0

Exchange アカウント設定」をご参照ください。

・複数ドメインかつドメインごとに専用アカウントを作成する場合

「Exchange へ接続する管理者ユーザーをドメイン別に利用する」機能を有効にしたうえで、「2.4 準備」と「2.6 Exchange への接続ユーザー設定」をご参照ください。

- 個人の連絡先の表示を許可する

チェックをオンに設定すると、Outlook アドインと AddressLook Premium で、Outlook や Outlook on the web と同じ連絡先を利用できます。機能を使用するために Exchange サーバーに接続し情報を取得する専用アカウントが必要となります。

専用アカウントの設定は Exchange 側の環境により異なります。以下を参照し、設定を実施してください。

・単一ドメイン/複数ドメインかつ専用アカウントがひとつの場合

「2.4 準備」と「0

Exchange アカウント設定」をご参照ください。

・複数ドメインかつドメインごとに専用アカウントを作成する場合

「Exchange へ接続する管理者ユーザーをドメイン別に利用する」機能を有効にしたうえで、「2.4 準備」と「2.6 Exchange への接続ユーザー設定」をご参照ください。

- 認証情報の保持期間

  0 日～3,650 日から、認証情報の保持期間を指定します。

  0 日を指定した場合、AddressLook を閉じる度に認証情報がクリアされます。

- AddressLook Premium で検索件数の上限を設定する

  チェックをオンに設定すると、AddressLook Premium の検索機能で、検索件数の上限を設定できます。(1～1000 件)

  チェックをオフに設定すると、検索件数の上限がなくなります。

- AddressLook Premium でアドレス一覧の表示項目を固定化しない

  AddressLook Premium の階層画面や検索画面に表示されるアドレス一覧での表示項目を切り替えます。

  チェックをオンに設定すると、アドレス帳の表示項目から上位 3 項目をアドレスに表示します。

  チェックをオフに設定すると、既定の項目（表示名カナ、表示名、電子メールアドレス）をアドレスに表示します。

- 高度なセキュリティを使用する

  チェックをオンに設定すると、DB に登録されるパスワードが複雑な値となりセキュリティレベルがより高度となります。

  ※チェックをオンに設定した場合、ユーザーのパスワードを再登録して頂く必要があります。
  また、最新の組織階層情報メンテナンスツールをダウンロードし、使用してください。

- Microsoft Teams の利用

  「AddressLook for Microsoft Teams」サービスをご契約の場合、Microsoft Teams で AddressLook を使用するために初期設定を行う必要があります。

  初期設定を行うことにより、Microsoft Teams で AddressLook が使用可能になります。

  初期設定は、Office 365 のグローバル管理者アカウントで 1 回のみ実施する必要があります。

  ※Microsoft Teams で AddressLook を使用するには、「AddressLook」のサービス契約とは別に「AddressLook for Microsoft Teams」のサービス契約が必要です。

- フェデレーション リダイレクト先

  フェデレーション認証のリダイレクト先に「1:b2clogin」を指定します。

  ※「0:microsoftonline」は、リダイレクト先となる Microsoft 社のエンドポイントが 2022 年 8 月 31 日に廃止されていることから、使用することはできません。

- 編集を許可する

  チェックをオンに設定すると、AddressLook サービスサイトにてログインユーザー自身の情報を変更可能にします。また、Outlook アドインのクライアントの設定と AddressLook Premium の設定画面に上記画面に遷移するリンクが表示されます。

編集可能な項目に関してはアドレス帳毎に設定可能となります。各項目に対してチェックをオンにすることでユーザーによる編集が可能となります。

- Exchange への認証方式
  Exchange サーバーへの接続時に使用する認証方式を指定します。
  Office 365 を利用する場合、「OAuth 認証」を選択してください。
  Office 365 を利用しない場合、「基本認証」を選択してください。

- アクセス許可
  Exchange への認証方式で「OAuth 認証」を選択した場合、OAuth 認証を使用するための初期設定を行う必要があります。
  初期設定を行うことにより、AddressLook で OAuth 認証が使用可能になります。
  初期設定は、Office 365 のグローバル管理者アカウントで 1 回のみ実施する必要があります。
- Exchange へ接続する管理者ユーザーをドメイン別に利用する
  チェックをオンに設定し、専用アカウントを登録することで、ユーザー側で AddressLook を使用する際に、Exchange への接続ユーザー設定の内容が反映されます。この設定は、複数ドメインかつドメインごとに専用アカウントを作成する場合のみ使用します。
  専用アカウントの登録方法については、「2.6 Exchange への接続ユーザー設定」をご参照ください。

2.2 利用ドメインの設定

本節では、認証形式に合わせたドメインの追加方法を記載します。
ドメインを追加することで、ドメイン配下のユーザーで AddressLook の使用が可能となります。

※ AddressLook Premium では、ユーザーメールアドレスのドメイン部分が利用ドメインと一致すれば使用可能となります。この時に認証は行われませんが、「2.2.1 フォーム認証の場合」としてドメインを登録します。

※ Outlook アドイン・ブラウザ版では、ユーザーID のドメイン部分が利用ドメインと一致、かつ認証が成功することで使用可能となります。認証形式（フォーム認証・ADFS 認証・SAML 認証）に合わせてドメインを設定します。

2.2.1 フォーム認証の場合

1 製品管理サイトを開き、管理者アカウントでサインインします。
- https://portal.bbsonlineservices.net/

2 「管理」サイトを開き、「Federation Setting」を選択します。

[画面 2]

3 フェデレーション設定一覧画面が表示されます。「新規作成」を選択します。

[画面 3]

4　新規作成画面が表示されます。以下の項目に入力を実施後、「更新」を選択します。

項目名	内容
Domain Name	使用するドメイン名を完全修飾ドメイン名(FQDN)で入力します 例）example.co.jp
Net BIOS Domain	「Domain Name」に入力したドメイン名のうち、1 つ目のドット「.」より前を入力します 例）example
Federation Type	「0:利用しない」を選択します

5　作成完了後、フェデレーション設定一覧画面に遷移します。

登録情報を編集する場合は該当列の「編集」、登録情報を削除する場合は該当列の「削除」を選択してください。

2.2.2　ADFS 認証の場合

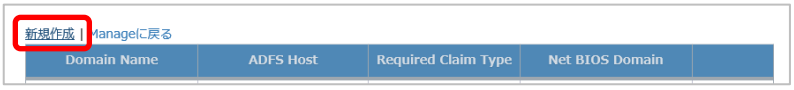
1　製品管理サイトを開き、管理者アカウントでサインインします。

- https://portal.bbsonlineservices.net/

2　「管理」サイトを開き、「Federation Setting」を選択します。

[画面 4]

3　フェデレーション設定一覧画面が表示されます。「新規作成」を選択します。



[画面 5]

4　新規作成画面が表示されます。以下の項目に入力を実施後、「更新」を選択します。

項目名	内容
Domain Name	使用するドメイン名を完全修飾ドメイン名(FQDN)で入力します 例）example.co.jp
ADFS Host Address	ADFS ホストアドレス（サーバー名）を完全修飾ドメイン名(FQDN)で入力します 例）adfs.example.co.jp
Net BIOS Domain	「Domain Name」に入力したドメイン名のうち、1 つ目のドット「.」より前を入力します 例）example
Federation Type	「1.ADFS 認証」を選択します
IsEnableB2C	チェックをオンにします

5　作成完了後、フェデレーション設定一覧画面に遷移します。

登録情報を編集する場合は該当列の「編集」、登録情報を削除する場合は該当列の「削除」を選択してください。

2.2.3 SAML 認証の場合

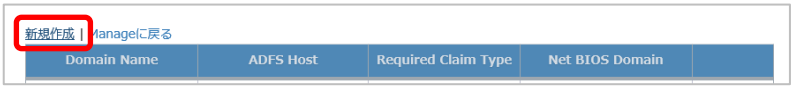
1　製品管理サイトを開き、管理者アカウントでサインインします。

- https://portal.bbsonlineservices.net/

2　「管理」サイトを開き、「Federation Setting」を選択します。

[画面 6]

3　フェデレーション設定一覧画面が表示されます。「新規作成」を選択します。



[画面 7]

4　新規作成画面が表示されます。以下の項目に入力を実施後、「更新」を選択します。

項目名	内容
Domain Name	使用するドメイン名を完全修飾ドメイン名(FQDN)で入力します 例）example.co.jp
Net BIOS Domain	「Domain Name」に入力したドメイン名のうち、1 つ目のドット「.」より前を入力します 例）example
Federation Type	「2.SAML 認証」を選択します
IsEnableB2C	チェックをオンにします

5　作成完了後、フェデレーション設定一覧画面に遷移します。

登録情報を編集する場合は該当列の「編集」、登録情報を削除する場合は該当列の「削除」を選択してください。

2.3　ログインユーザー設定

ログインユーザー（アカウント）を設定します。以下のアカウントを使用する場合に設定が必要です。
・管理者アカウント
・Outlook アドイン・ブラウザ版をフォーム認証で使用する利用者アカウント
アカウントは組織階層情報メンテナンスツールから設定することもできます。

※ AddressLook Premium を使用する場合は、Outlook や Outlook on the web にサインインしている Microsoft 365 アカウントのメールアドレスのドメイン部分が利用ドメインと一致すれば使用可能となることから、AddressLook にアカウントを設定する必要はありません。
※ Outlook アドイン・ブラウザ版をフェデレーション認証（ADFS 認証・SAML 認証）で使用する場合は、フェデレーションサーバー側のアカウントを使用して認証が行われることから、AddressLook にアカウントを設定する必要はありません。

1　製品管理サイトを開き、管理者アカウントでサインインします。
- https://portal.bbsonlineservices.net/

2　「管理」サイトを開き、「User」を選択します。

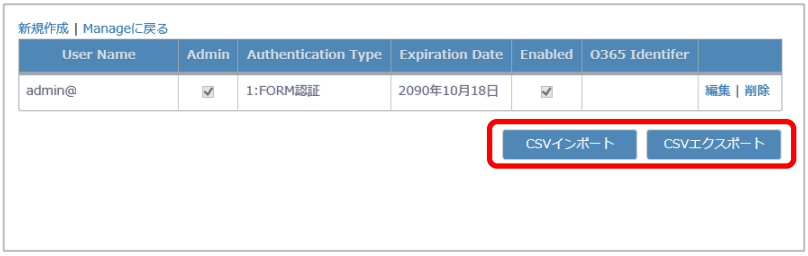
[画面 8]

3　アカウント一覧画面が開きます。

「CSV インポート」…CSV 形式ファイルから、アカウント情報の一括インポートが可能です。

「CSV エクスポート」…アカウント一覧は、CSV ファイルへエクスポートが可能です。

CSV エクスポート項目
Operator、UserId、Password、IsAdmin、AuthenticationType、ExpirationDate、Enabled



[画面 9]

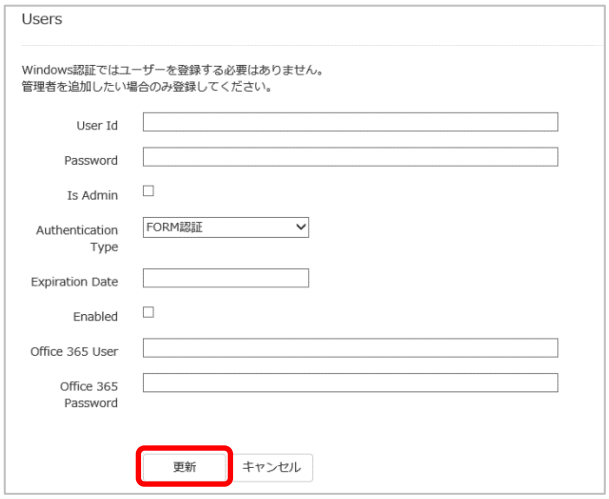
アカウントの新規作成、編集、削除について、以下に説明します。

2.3.1 ユーザー作成

1　アカウント一覧画面から「新規作成」を選択すると、新規作成画面に遷移します。

[画面 10]

2　各項目を入力し、「更新」を選択します。



[画面 11]

設定項目について以下に説明します。

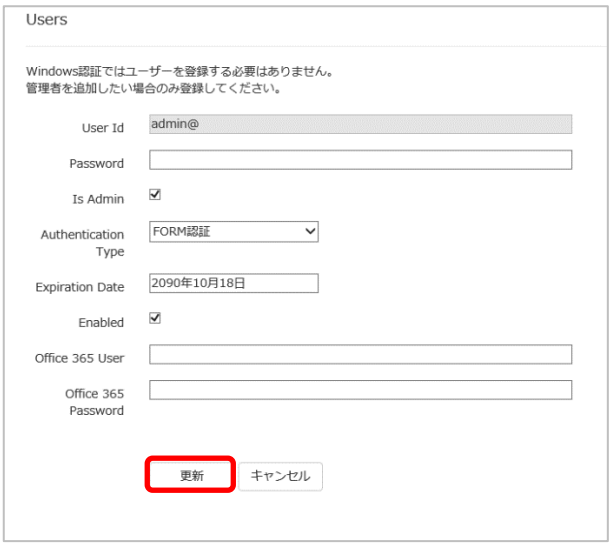
項目名	内容
User Id	アカウントのユーザーID を入力します 例）user@example.co.jp
Password	アカウントのパスワードを入力します
Is Admin	管理者権限を付与する場合、チェックをオンにします 利用者アカウントの場合、チェックをオフにします
Authentication Type	使用する認証方式により「FORM 認証」「フェデレーション認証」「Windows 認証」を選択します
Expiration Date	アカウントの有効期限を設定します
Enabled	アカウントを使用可能にする場合、チェックをオンにします アカウントを使用不可能にする場合、チェックをオフにします
Office 365 User	(任意)アカウントに紐づける Microsoft 365 アカウントを入力します
Office 365 Password	(任意)Microsoft 365 アカウントのパスワードを入力します

2.3.2 ユーザー編集

1　アカウントの一覧から「編集」を選択すると、詳細画面に遷移します。

[画面 12]

2　設定項目を入力し、「更新」を選択します。



[画面 13]

設定項目について以下に説明します。

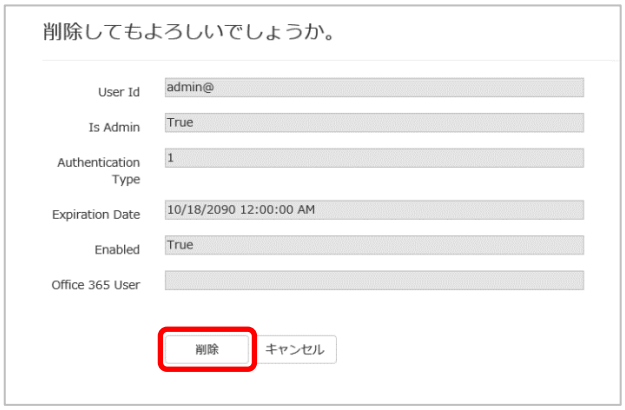
項目名	内容
User Id	アカウントのユーザーID が表示されます
Password	アカウントのパスワードを入力します
Is Admin	管理者権限を付与する場合、チェックをオンにします 利用者アカウントの場合、チェックをオフにします
Authentication Type	使用する認証方式により「FORM 認証」「フェデレーション認証」「Windows 認証」を選択します
Expiration Date	アカウントの有効期限を設定します
Enabled	アカウントを使用可能にする場合、チェックをオンにします アカウントを使用不可能にする場合、チェックをオフにします
Office 365 User	(任意)アカウントに紐づける Microsoft 365 アカウントを入力します
Office 365 Password	(任意)Microsoft 365 アカウントのパスワードを入力します

2.3.3 ユーザー削除

1　アカウントの一覧から「削除」を選択すると、詳細画面に遷移します。
管理者は、自分のアカウントを削除することはできません。

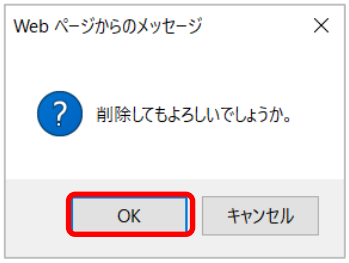
[画面 14]

2　詳細画面で「削除」を選択します。



[画面 15]

3　削除確認メッセージが表示されるので、「OK」を選択します。



[画面 16]

2.4 準備

2.4.1 Exchange サービス用アカウントの用意

AddressLook にユーザーの写真や個人の連絡先を表示する場合は、各情報を Microsoft 365 から参照するための専用アカウントとして「Exchange サービス用アカウント」を用意し、写真や個人の連絡先を代理取得する権限を付与します。
セキュリティ強化のため、他の管理者アカウントとは異なるアカウントを作成することを推奨します。
尚、本アカウントにはメールボックスが必要です。

1 Microsoft 365 管理センターに Microsoft 365 のグローバル管理者アカウントでサインインします。
- https://admin.microsoft.com/

2 メニューから「ユーザー」-「アクティブなユーザー」を開きます。
3 「+(新規作成)」を選択し、Exchange サービス用アカウントを作成します。
※既存のアカウントを使用する場合は、この手順は不要です。

[画面 17]

4 Exchange 管理センターに管理者アカウントでサインインし、管理者画面を開きます。
- https://admin.exchange.microsoft.com/

5 メニューから「役割」-「管理者の役割」を開きます。
6 「管理者の役割」画面内の「役割グループを追加する」を選択します。

[画面 18]

7　「名前」欄に「予定取得権限」と入力し、「次へ」を選択します。

[図 19]

8　役割の一覧から「ApplicationImpersonation」のチェックをオンにし、「次へ」を選択します。

[画面 20]

9　「メンバー」欄に、作成した Exchange サービス用アカウントを検索して追加し、「次へ」を選択します。

[画面 21]

10　「役割グループの追加」を選択します。

[図 22]

11　「完了」を選択し、画面を閉じます。

[図 23]

2.5 Exchange アカウント設定

Exchange アカウントを設定します。
以下の作業を行う前に「2.4.1 Exchange サービス用アカウントの用意」が必要です。

1 製品管理サイトを開き、管理者アカウントでサインインします。
- https://portal.bbsonlineservices.net/

2 「管理」サイトを開き、「Exchange Account」を選択します。

[画面 24]

アカウントの新規作成、編集、削除について、以下に説明します。

2.5.1 アカウント作成

1 「新規作成」を選択すると、詳細画面が開きます。
※既にアカウント登録済みの場合、「新規作成」メニューは表示されません。

[画面 25]

2　各項目を入力し、「更新」を選択します。

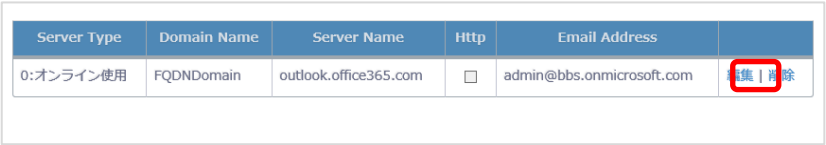
[画面 26]

設定項目について以下に説明します。

項目名	内容
Domain Name	使用するドメイン名を完全修飾ドメイン名(FQDN)で入力します。 例）example.co.jp
Exchange Server Type	使用する Exchange サーバーのタイプにより「オンライン（自動)」「オンプレミス（自動)」を選択します
Exchange Server Name	Microsoft 365 の Exchange Online を使用する場合は、「outlook.office365.com」を入力します。オンプレミスの Exchange サーバーを使用する場合は、Exchange サーバー名を入力します
Use Http	既定では、HTTPS が使用されます。HTTP を使用する場合は、チェックをオンにします
Email Address	Exchange サービス用アカウントのユーザーID を入力します
Password	Exchange サービス用アカウントのパスワードを入力します

2.5.2 アカウント編集

1　アカウントの一覧から「編集」を選択すると、詳細画面に遷移します。



[画面 27]

2　設定項目を入力し、「更新」を選択します。

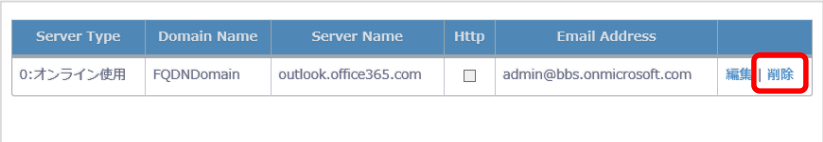
[画面 28]

設定項目について以下に説明します。

項目名	内容
Domain Name	使用するドメイン名を完全修飾ドメイン名(FQDN)で入力します。 例）example.co.jp
Exchange Server Type	使用する Exchange サーバーのタイプにより「オンライン（自動)」「オンプレミス（自動)」を選択します
Exchange Server Name	Microsoft 365 の Exchange Online を使用する場合は、「outlook.office365.com」を入力します。オンプレミスの Exchange サーバーを使用する場合は、Exchange サーバー名を入力します
Use Http	既定では、HTTPS が使用されます。HTTP を使用する場合は、チェックをオンにします
Email Address	Exchange サービス用アカウントのユーザーID を入力します
Password	Exchange サービス用アカウントのパスワードを入力します

2.5.3 アカウント削除

1　アカウントの一覧から「削除」を選択すると、詳細画面に遷移します。



[画面 29]

2　詳細画面で「削除」を選択します。

[画面 30]

3　削除確認メッセージが表示されるので、「OK」を選択します。

[画面 31]

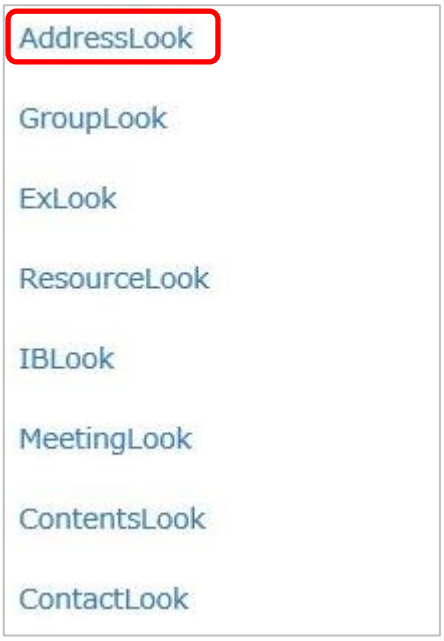
2.6　Exchange への接続ユーザー設定

「Exchange へ接続する管理者ユーザーをドメイン別に利用する」チェックボックスをチェックした場合に管理者ユーザーを設定します。
以下の作業を行う前に「2.4.1 Exchange サービス用アカウントの用意」が必要です。

1　製品管理サイトを開き、管理者アカウントでサインインします。

- https://portal.bbsonlineservices.net/

2　「管理」サイトを開き、「AddressLook」を選択します。



[画面 32]

管理者ユーザーの新規作成、編集、削除について、以下に説明します。

2.6.1 管理者ユーザー作成

1　AddressLook 設定画面から Exchange への接続ユーザー設定の「新規作成」を選択すると、新規作成画面に遷移します。

[画面 33]

2　各項目を入力し、「更新」を選択します。

[画面 34]

設定項目について以下に説明します。

項目名	内容
Domain Name	使用するドメイン名を完全修飾ドメイン名(FQDN)で入力します 例）example.co.jp
Exchange Server Type	使用する Exchange サーバーのタイプにより「オンライン（自動)」「オンプレミス（自動)」を選択します
Exchange Server Name	Microsoft 365 の Exchange Online を使用する場合は、「outlook.office365.com」を入力します。オンプレミスの Exchange サーバーを使用する場合は、Exchange サーバー名を入力します
Use Http	既定では、HTTPS が使用されます。HTTP を使用する場合は、チェックをオンにします
Email Address	Exchange サービス用アカウントのユーザーID を入力します
Password	Exchange サービス用アカウントのパスワードを入力します

2.6.2 管理者ユーザー編集

1　アカウントの一覧から「編集」を選択すると、詳細画面に遷移します。

[画面 35]

2　設定項目を入力し、「更新」を選択します。

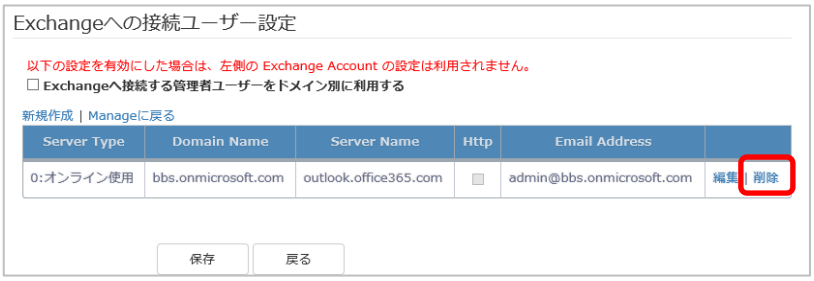
[画面 36]

設定項目について以下に説明します。

項目名	内容
Domain Name	使用するドメイン名を完全修飾ドメイン名(FQDN)で入力します 例）example.co.jp
Exchange Server Type	使用する Exchange サーバーのタイプにより「オンライン（自動)」「オンプレミス（自動)」を選択します
Exchange Server Name	Microsoft 365 の Exchange Online を使用する場合は、「outlook.office365.com」を入力します。オンプレミスの Exchange サーバーを使用する場合は、Exchange サーバー名を入力します
Use Http	既定では、HTTPS が使用されます。HTTP を使用する場合は、チェックをオンにします
Email Address	Exchange サービス用アカウントのユーザーID を入力します
Password	Exchange サービス用アカウントのパスワードを入力します

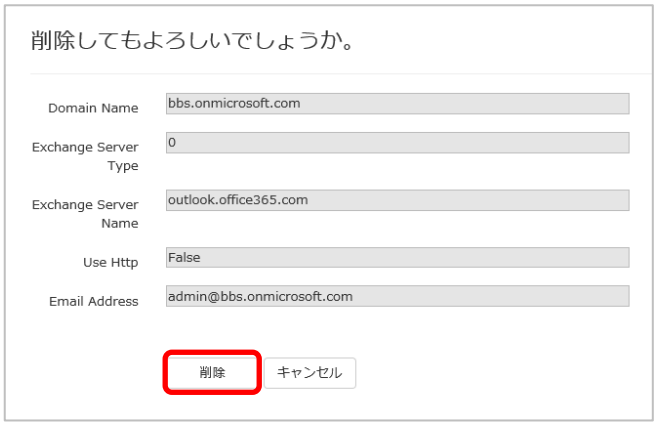
2.6.3 管理者ユーザー削除

1　アカウントの一覧から「削除」を選択すると、詳細画面に遷移します。



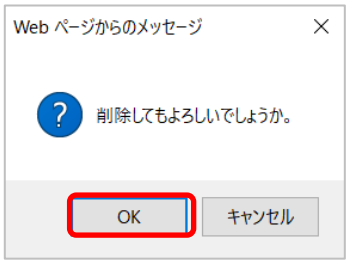
[画面 37]

2　詳細画面で「削除」を選択します。



[画面 38]

3　削除確認メッセージが表示されるので、「OK」を選択します。



[画面 39]

3. AddressLook Premium の設定

Exchange サーバーに AddressLook Premium アドインの URL を設定すると、Outlook/Outlook on the web (OWA)から AddressLook Premium のご利用が可能となります。クライアントへのアドインの配布やインストールは不要です。

3.1　アドインの追加

本節では、AddressLook Premium アドインを有効化する手順について説明します。
アドインを有効化すると、Outlook/Outlook on the web (OWA) にアドインが表示されます。

注意：アドインを有効化してから、Outlook/Outlook on the web (OWA) にアドインが表示されるまでに、数時間以上かかる場合があります。アドインが表示されない場合はしばらく待ち、改めて確認してください。

3.1.1 アドインの有効化

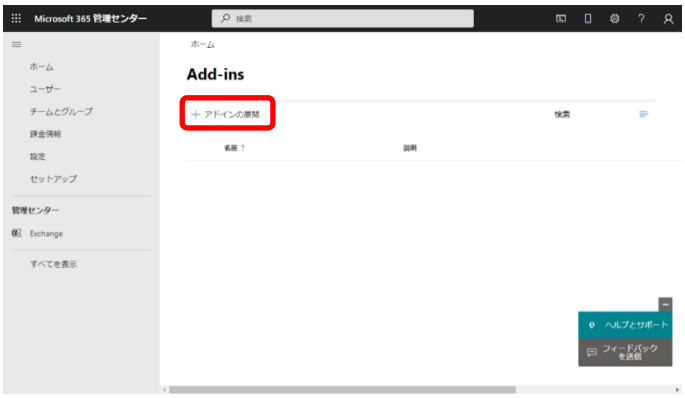
本項では、Exchange サーバーにアドインを追加する手順について説明します。

1　Microsoft 365 管理センターに Microsoft 365 のグローバル管理者アカウントでサインインします。
   - https://admin.microsoft.com/

2　メニューから「設定」-「統合アプリ」を開き、「統合アプリ」画面内の[Azure Active Directory | SharePoint | Teams | Add-ins]と表示されている箇所の［Add-ins］をクリックします。

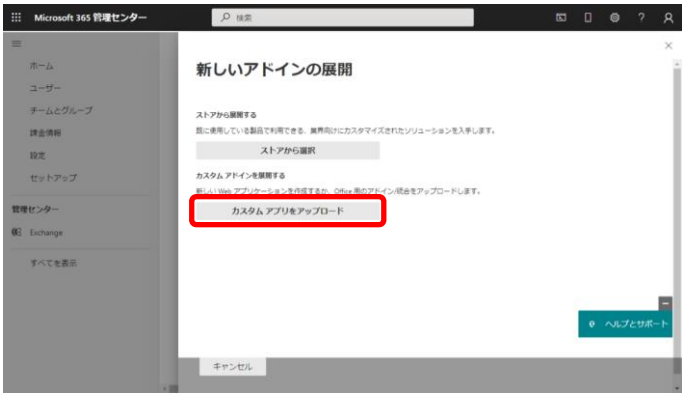
[画面 40]

3　「＋アドインの展開」を開き、「次へ」を選択します。



[画面 41]

4　「カスタム アドインを展開する」 - 「カスタム アプリをアップロード」をクリックします。



[図 42]

5　「マニフェストファイルの URL がわかります。」を選択し、下記 URL を入力して「アップロード」をクリックします。

- オンラインの場合：
  https://www.addresslook.net/app/AddressLookPremium.xml

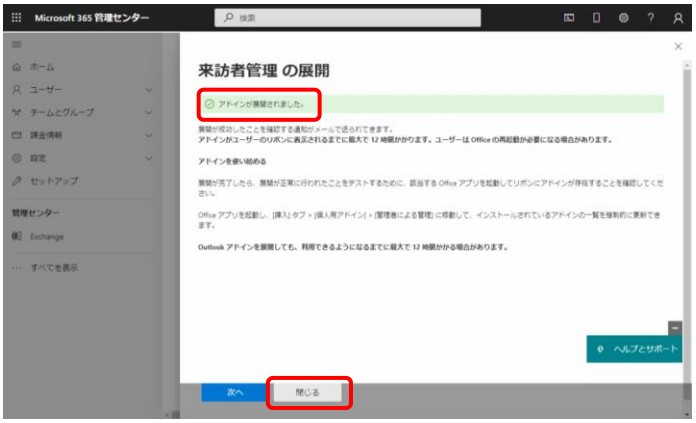
※入力欄の先頭に https:// と記載されていますが、https:// も入力して下さい。

[図 43]

6　[ユーザーの割り当て] を AddressLook Premium を利用する範囲に合わせて選択し、[展開方法] - [固定（既定)] を選択して、[展開]をクリックします。

[画面 44]

7　7「アドインが展開されました」のメッセージを確認し、「閉じる」をクリックします。



[図 45]

8　アドイン一覧に「AddressLook Premium」が追加されたことを確認します。

3.1.2 ユーザー既定値の設定変更

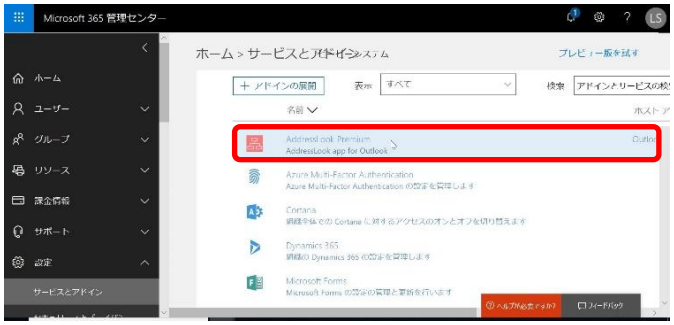
本項では、AddressLook Premium アドインの設定値を変更する手順について説明します。
ここでは、ユーザー個人が AddressLook Premium アドイン設定を無効化できない(必須)設定に変更します。

1 Microsoft 365 管理センターに Microsoft 365 のグローバル管理者アカウントでサインインします。
- https://admin.microsoft.com/

2 メニューから「設定」-「統合アプリ」を開き、「統合アプリ」画面内の[Azure Active Directory | SharePoint | Teams | Add-ins]と表示されている箇所の［Add-ins］をクリックします。

［図 46］

3 アドイン一覧から「AddressLook Premium」を選択します。



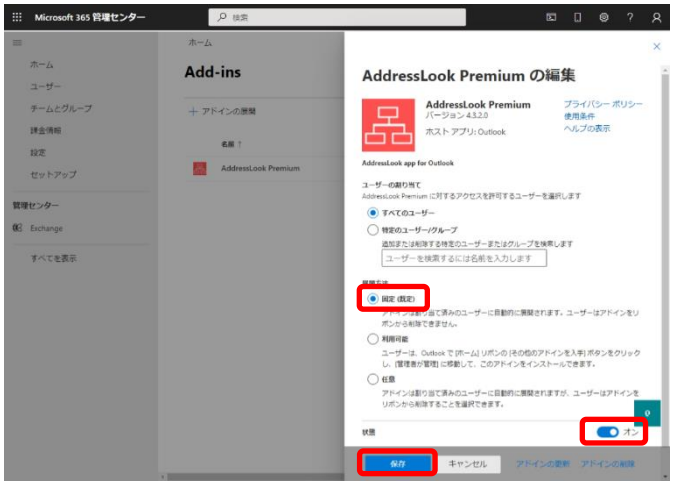
［画面 47］

4 「AddressLook Premium の編集」画面で以下のように設定し、「保存」を選択します。
- 展開方法の編集：
  ●(オン)：固定（既定）
  ○(オフ)：利用可能

○(オフ)：任意

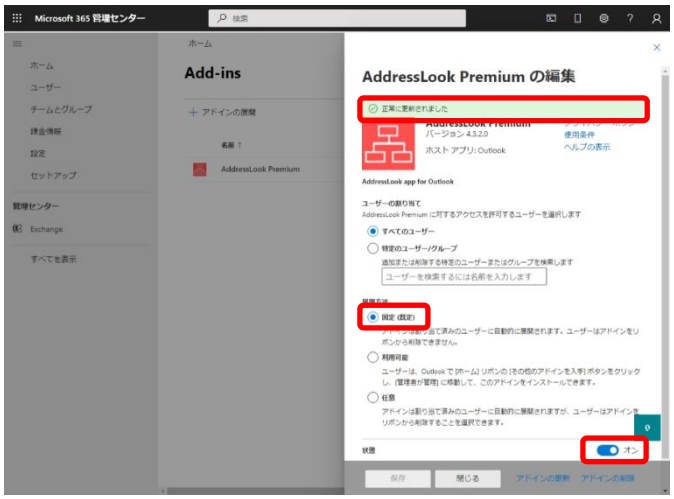
- 「状態」

  スイッチ：オン



[画面 48]

5　「正常に更新されました」とメッセージが表示され、「AddressLook Premium の編集」画面に設定が反映されたことを確認します。



[図 49]

6　「閉じる」を選択して「AddressLook Premium の編集」画面を閉じます。

3.2　アドインの無効化

本節では、AddressLook Premium アドインを既定で無効化する手順について説明します。
ユーザーの操作で、AddressLook Premium アドイン設定を有効に変更することが可能です。

3.2.1 ユーザー既定値の設定変更

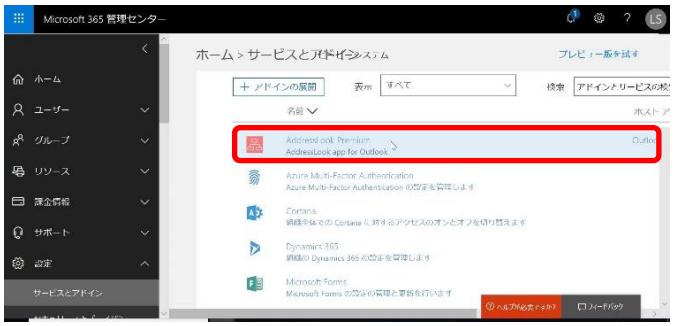
1　Microsoft 365 管理センターに Microsoft 365 のグローバル管理者アカウントでサインインします。

- https://admin.microsoft.com/

2　メニューから「設定」-「統合アプリ」を開き、「統合アプリ」画面内の[Azure Active Directory | SharePoint | Teams | Add-ins]と表示されている箇所の［Add-ins］をクリックします。

［図 50］

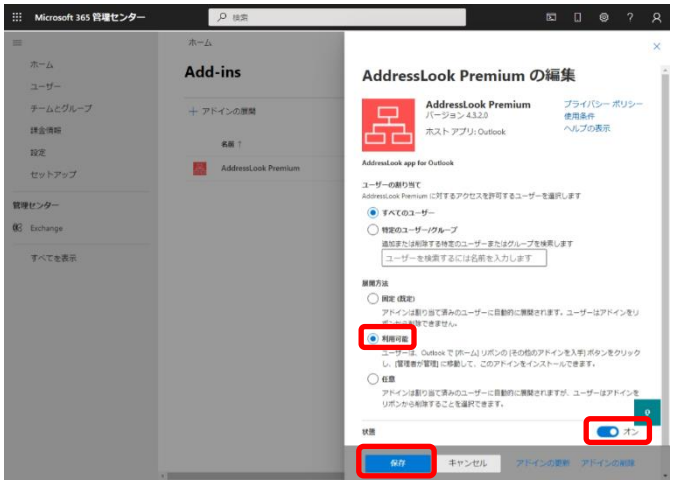
3　アドイン一覧から「AddressLook Premium」を選択します。



［図 51］

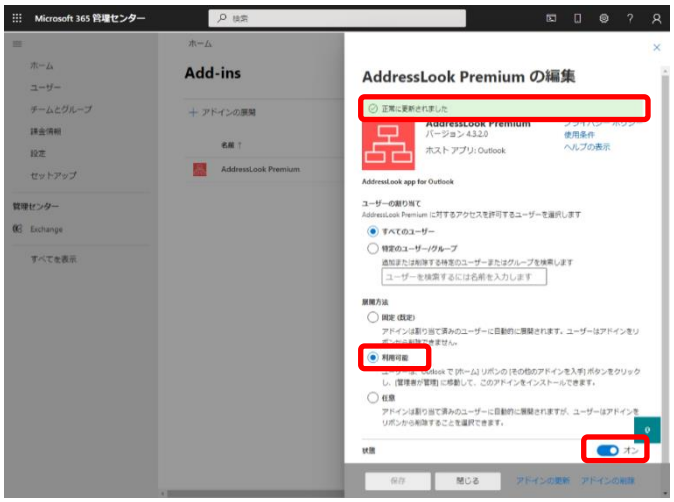
4　「AddressLook Premium の編集」画面で以下のように設定し、「保存」を選択します。

- 展開方法の編集：
  ○(オフ)：固定（既定）
  ●(オン)：利用可能
  ○(オフ)：任意
- 「状態」
  スイッチ：オン



[画面 52]

5　「正常に更新されました」とメッセージが表示され、「AddressLook Premium の編集」画面に設定が反映されたことを確認します。



[図 53]

6　「閉じる」を選択して「AddressLook Premium の編集」画面を閉じます。

3.3 アドインの削除

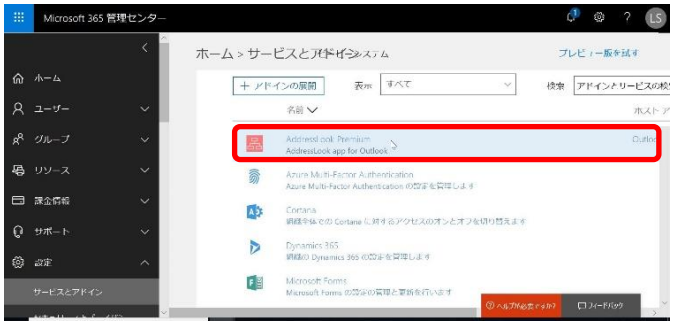
1 Microsoft 365 管理センターに Microsoft 365 のグローバル管理者アカウントでサインインします。

- https://admin.microsoft.com/

2 メニューから「設定」-「統合アプリ」を開き、「統合アプリ」画面内の[Azure Active Directory | SharePoint | Teams | Add-ins]と表示されている箇所の［Add-ins］をクリックします。

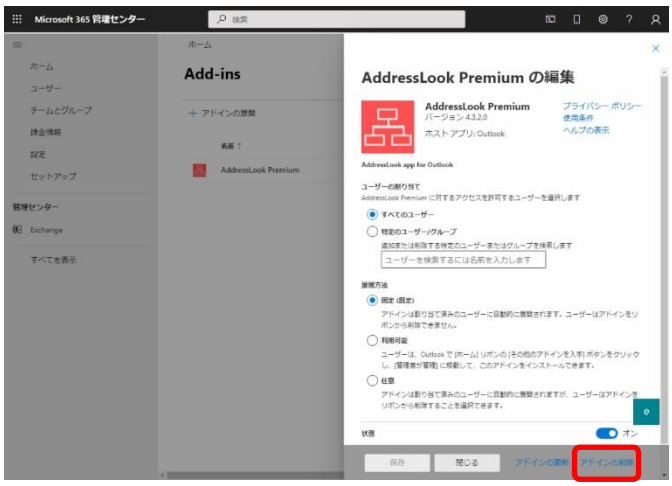
［図 54］

3 アドイン一覧から「AddressLook Premium」を選択します。



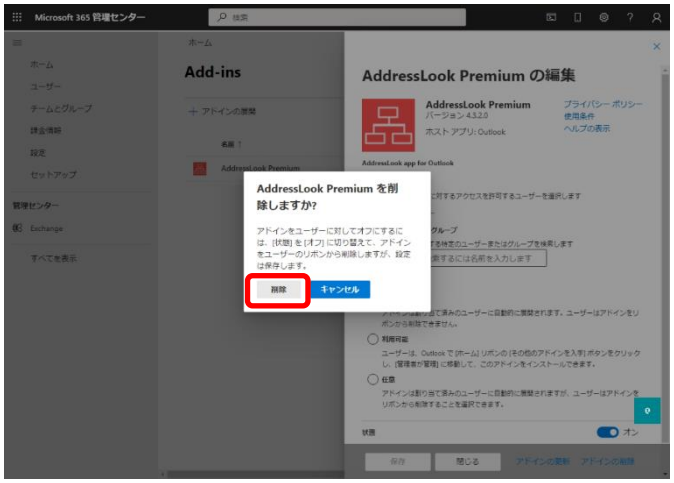
［図 55］

4　「AddressLook Premium の編集」画面で「アドインの削除」を選択します。



[画面 56]

5　「警告」画面が表示されるので「削除」を選択します。



[画面 57]

6　アドイン一覧から「AddressLook Premium」が削除されたことを確認します。

4. Outlook アドインの導入・展開

本章では、AddressLook の Outlook アドインを導入・展開する方法について、手順を記載します。
導入を始める前に、それぞれのクライアント PC がソフトウェア条件を満たしていることをご確認ください。

4.1　ダウンロード

PC のブラウザから AddressLook サーバーに接続し、必要なコンポーネントをダウンロードします。
ダウンロードに使用するブラウザに指定はありません。
各クライアント PC に導入する際は、AddressLook サーバーから直接ダウンロードしてご利用いただくか、ダウンロードしたものを配布してご利用いただけます。

1　管理者権限を持つアカウントで AddressLook サーバーへ接続します。以下の URL に PC のブラウザから接続します。

- AddressLook Online の場合
  - ＊　www.addresslook.net 環境：https://www.addresslook.net/
  - ＊　hab.addresslook.net 環境：https://hab.addresslook.net/

- 導入時に配置した AddressLook サービスサイトにアクセスする場合
  - ＊　(例) http://<ServerName>/AddressLook

注意：サーバー名/仮想ディレクトリ名は実際の設置に合わせて設定してください。

2　AddressLook ログイン画面が表示されます。
3　認証方式を選択し、以下の手順を実行します。

[画面 58]

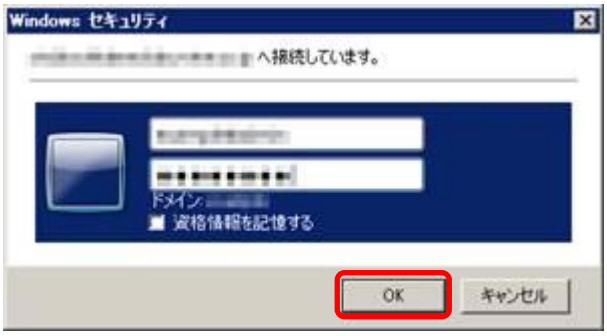
(1) フォーム認証の場合

「フォーム認証」を選択します。AddressLook ログイン画面にアカウント名/パスワードを入力し、「ログイン」を選択します。

(2) フェデレーション認証の場合

- ADFS 認証の場合(ADFS プロキシを経由しない場合)

「フェデレーション認証」を選択します。AddressLook ログイン画面に管理者アカウント名を入力し、「ログイン」を選択します。
Windows セキュリティ画面が表示された場合のみ、ドメインのユーザーID/パスワードを入力し、「OK」を選択します。
Windows セキュリティ画面が表示されない場合は自動的にログインされます。



[画面 59]

- ADFS 認証の場合(ADFS プロキシを経由する場合)

「フェデレーション認証」を選択します。AddressLook ログイン画面に管理者アカウント名を入力します。「ログイン」を選択すると、サインイン画面が表示されます。
ドメインのユーザー名/パスワードを入力し、「サインイン」を選択します。

[画面 60]

- SAML 認証(Azure ポータル利用)の場合

「フェデレーション認証」を選択します。AddressLook ログイン画面に管理者アカウント名を入力します。「ログイン」を選択すると、サインイン画面が表示されます。
ユーザー名/パスワードを入力し、「サインイン」を選択します。

[画面 61]

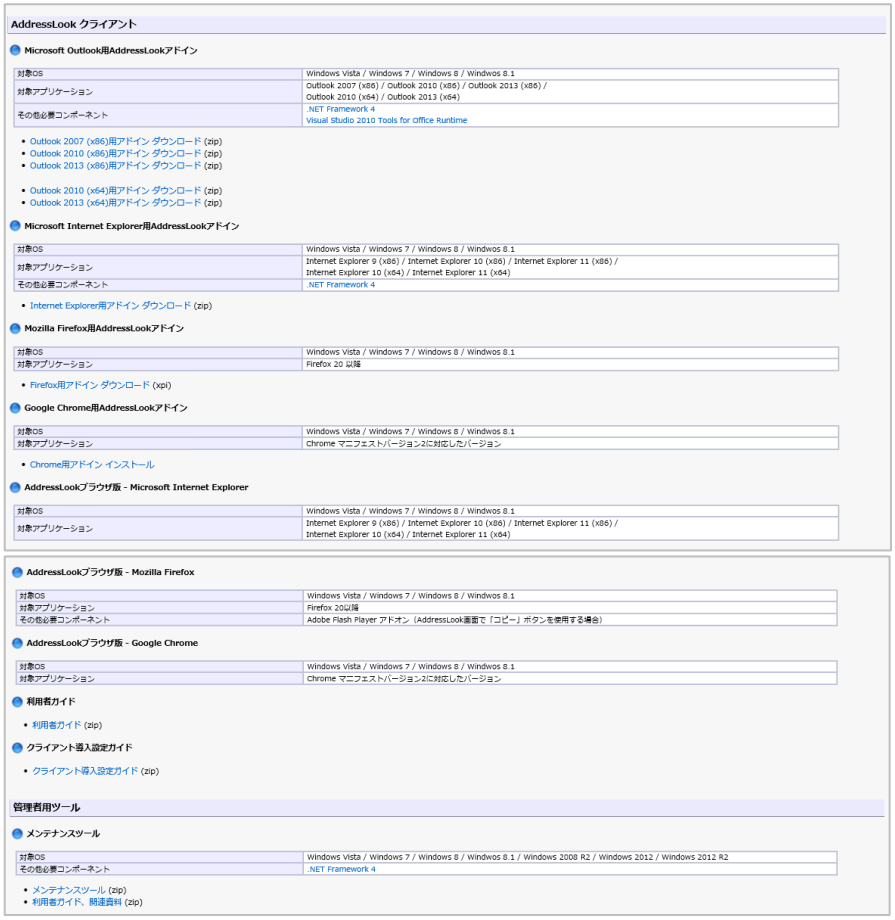
- SAML 認証(HENNGE One 利用)の場合

「フェデレーション認証」を選択します。AddressLook ログイン画面に管理者アカウント名を入力します。「ログイン」を選択すると、サインイン画面が表示されます。
ユーザー名/パスワードを入力し、「ログイン」を選択します。

[画面 62]

注意：Windows 認証の場合は、ログイン画面は表示されません。
管理者権限を持つアカウントでログインする必要があります。

4　「管理」タブを開きます。クライアント展開に必要なインストールファイルを選択し、ダウンロードします。



[画面 63]

注意:Outlook 用のモジュールは、使用している Outlook のバージョンとビット数に沿ってダウンロードします。Outlook 2019、Outlook for Microsoft 365 には、Outlook 2016 用のアドインをインストールしてください。

5　必要に応じて、組織階層情報メンテナンスツールや各種ドキュメント(利用者ガイド、クライアント導入設定ガイド、組織階層情報メンテナンスツールガイド)をダウンロードします。

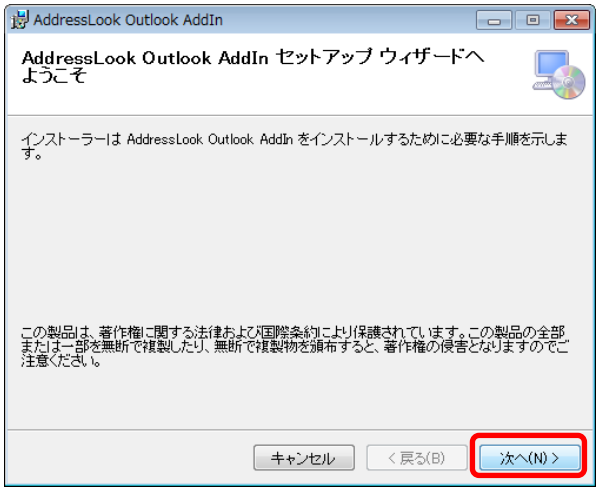
[画面 64]

6　ダウンロードした ZIP ファイルを任意のフォルダに展開します。

4.2 Outlook アドインのインストール

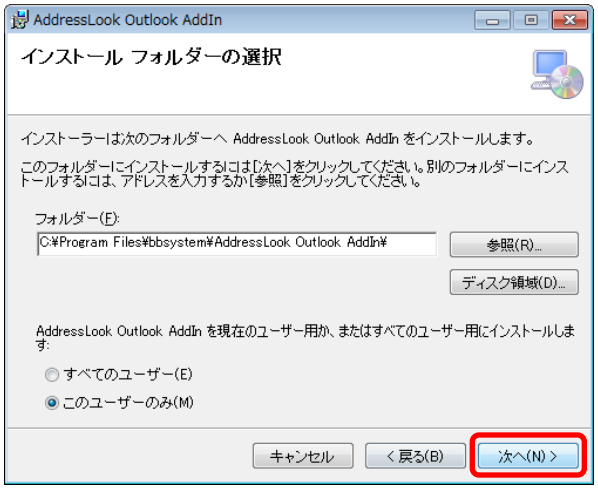
前述の手順でダウンロードした Outlook アドインのインストーラファイルから、インストールウィザードを起動します。ウィザードに従って、導入を始めます。
以下の手順を実施します。

1 展開した導入プログラムから Setup.exe を起動します。
2 セットアップウィザードが起動します。
3 「次へ」を選択します。



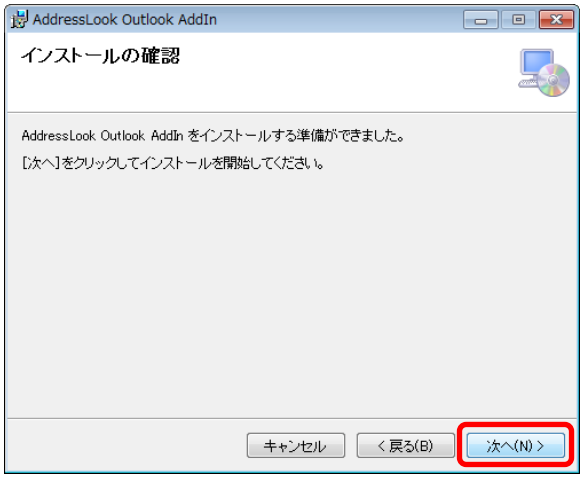
[画面 65]

4 プログラムファイルを展開するフォルダを選択します。
5 AddressLook クライアントモジュールを使用できるユーザーの範囲を選択し、「次へ」を選択します。
「すべてのユーザー」：同じ PC の他の利用者もアドインを使用可能です。
「このユーザーのみ」：同じ PC の他の利用者はアドインを使用できません。



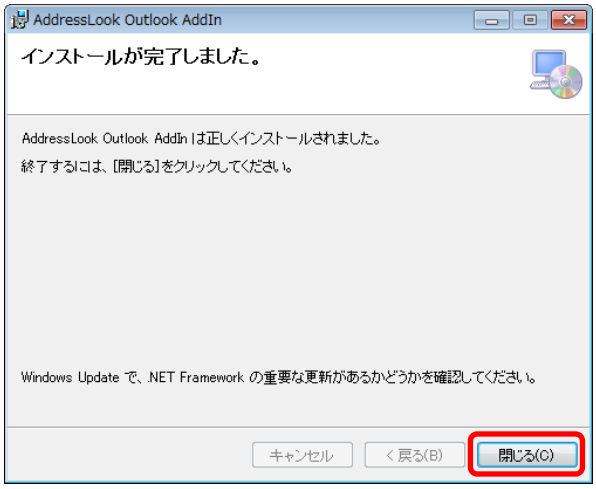
[画面 66]

6　「次へ」を選択し、インストールを開始します。



[画面 67]

7　正しくインストールが完了したことを確認し、「閉じる」を選択してウィザードを閉じます。



[画面 68]

5. Outlook アドインの設定

本章では、AddressLook の Outlook アドインの設定方法について、記載します。

5.1 Outlook アドイン設定方法

クライアント PC で Outlook アドインを初めて起動すると、動作に必要な設定を入力するように促されます。この設定は、AddressLook のサービス提供形態、フェデレーション認証利用の有無、プロキシ利用の有無によって設定内容が異なります。
設定情報については、後述「5.2 サービス URL の設定」「5.3 サービス認証方法の設定」「5.4 プロキシ設定」をご参照ください。

AddressLook クライアントモジュールを導入した PC より、アドイン設定画面を開きます。

1 以下より設定ツールを起動します。
   - Windows 10 環境の場合

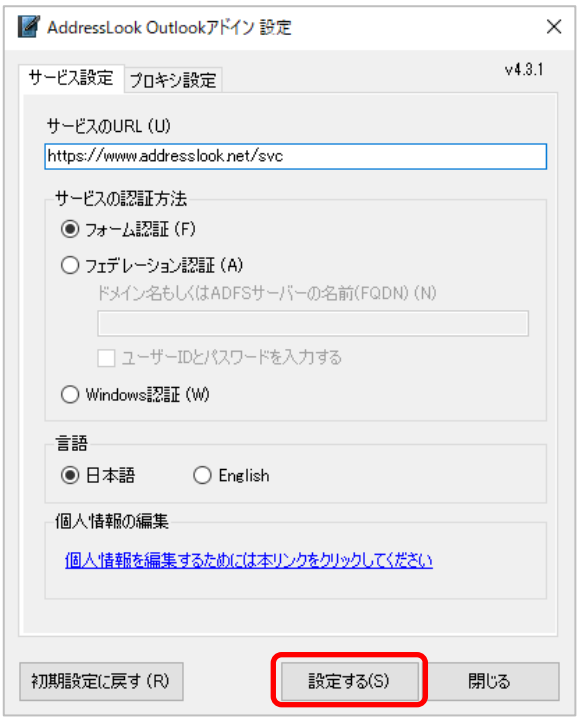
   スタートメニューの［AddressLook］-［AddressLook 設定ツール］より、起動します。

   - Windows 11 環境の場合

   スタートメニューの［すべてのアプリ］-［AddressLook 設定ツール］より、起動します。

2 「AddressLook Outlook アドイン設定」画面が開きます。
3 管理者から通知された設定情報を入力します。

4　「設定する」を選択し、設定内容を保存します。



[画面 69]

注意：プロキシサーバーを利用する環境の場合のみ「プロキシ設定」を行う必要があります。
管理者の指示に従い設定してください。

5.2　サービス URL の設定

サービス URL は、使用する AddressLook サーバーの種別により異なります。
AddressLook クライアントモジュールを導入した PC より、アドイン設定画面を開きます。

1　「AddressLook Outlook アドイン設定」画面を開きます。
2　「サービス設定」タブを開き、「サービスの URL」を入力します。
- オンラインの場合：(例) https://www.addresslook.net/svc
- オンプレミスの場合：(例) http://<ServerName>/svc

注意：サービス URL の入力において、末尾のスラッシュ(/)は入力不要です。
「初期設定に戻す」を選択すると、インストール直後の設定内容に戻ります。

5.3　サービス認証方法の設定

AddressLook を使用する際に、クライアントモジュールから使用者の認証を行ってサーバーに接続します。使用する認証方法に合わせて、クライアントモジュールを設定します。

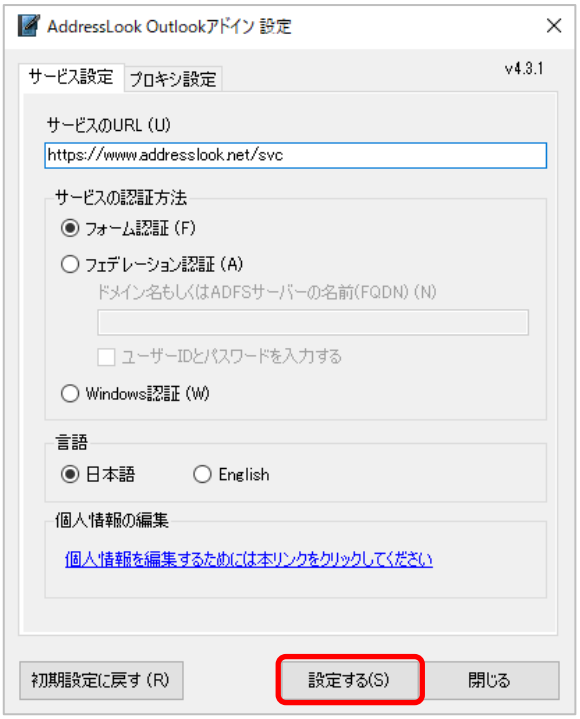
サーバー接続時にダイアログが表示され、接続要求がありますので、環境に合わせて入力する内容を選択してください。

5.3.1 フォーム認証を使用する

管理者から通知された、使用者のユーザーID/パスワードを入力します。
クライアントモジュールは、この情報をフォーム認証としてサーバーに送ります。

注意：アドインの認証情報の保持期間を超過すると、AddressLook に記録した認証情報がクリアされます。その場合、再度認証情報を入力してください。認証情報の保持期間は、製品管理サイトより設定可能です。詳細については、「2.管理者設定」をご参照ください。
また、アカウント情報の変更やサーバー接続失敗などの原因により認証に失敗した場合も、AddressLook は認証情報をクリアします。

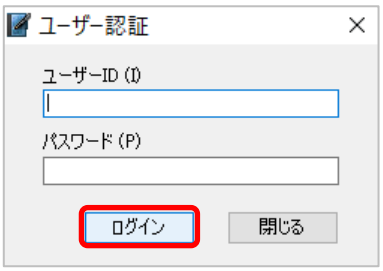
1　「AddressLook Outlook アドイン設定」画面の「サービス設定」タブを開き、「サービスの認証方法」に「フォーム認証」を選択します。
2　「設定する」を選択します。



[画面 70]

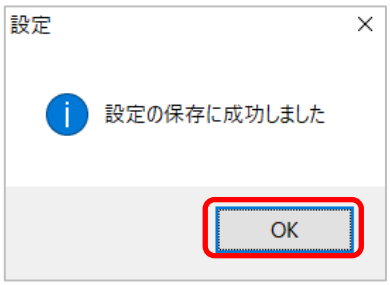
3　ユーザー認証ダイアログに管理者から通知されたユーザーID/パスワードを入力します。

4　「ログイン」を選択します。



[画面 71]

5　確認メッセージが表示されるので、「OK」を選択します。

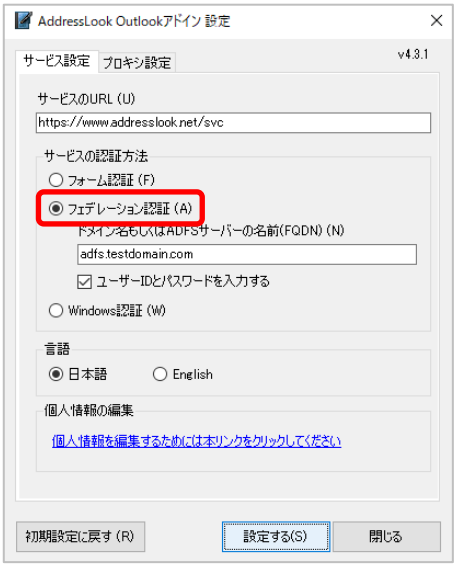


[画面 72]

6　「閉じる」を選択します。

5.3.2 フェデレーション認証を使用する

1　「AddressLook Outlook アドイン設定」画面の「サービス設定」タブを開き、「サービスの認証方法」に「フェデレーション認証」を選択します。



[画面 73]

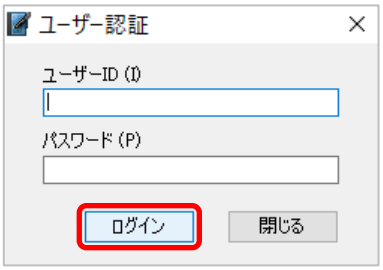
2　[ドメイン名もしくは ADFS サーバーの名前(FQDN)]に利用するドメイン名、もしくは ADFS サーバー名を入力します。

3　[ユーザーID とパスワードを入力する]にチェックを入れます。
チェックを入れない場合、現在ログインしている Windows ユーザー情報を使用して認証を行います。

4　「設定する」を選択します。

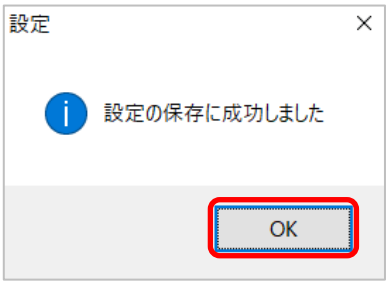
5　ユーザー認証ダイアログが表示された場合は、管理者から通知されたユーザーID/パスワードを入力します。

6　「ログイン」を選択します。



[画面 74]

7　確認メッセージが表示されるので、「OK」を選択します。



[画面 75]

8　「閉じる」を選択します。

5.3.3 SAML 認証を使用する

(1) Azure ポータルを利用する場合

1 「AddressLook Outlook アドイン設定」画面の「サービス設定」タブを開き、「サービスの認証方法」に「フェデレーション認証」を選択します。

[画面 76]

2 [ドメイン名もしくは ADFS サーバーの名前(FQDN)]に利用するドメイン名を入力します。

3 [ユーザーID とパスワードを入力する]にチェックを入れます。
チェックを入れない場合、現在ログインしている Windows ユーザー情報を使用して認証を行います。

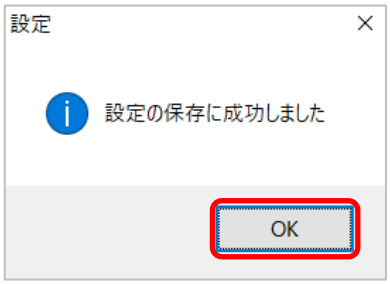
4 「設定する」を選択します。

5 ユーザー認証ダイアログが表示された場合は、管理者から通知されたユーザーID/パスワードを入力します。

6　「サインイン」を選択します。

[画面 77]

7　確認メッセージが表示されるので、「OK」を選択します。



[画面 78]

8　「閉じる」を選択します。

(2) HENNGE One を利用する場合

1 「AddressLook Outlook アドイン設定」画面の「サービス設定」タブを開き、「サービスの認証方法」に「フェデレーション認証」を選択します。

[画面 79]

2 [ドメイン名もしくは ADFS サーバーの名前(FQDN)]に利用するドメイン名を入力します。

3 [ユーザーID とパスワードを入力する]にチェックを入れます。
チェックを入れない場合、現在ログインしている Windows ユーザー情報を使用して認証を行います。

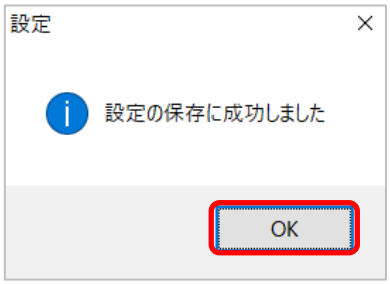
4 「設定する」を選択します。

5 ユーザー認証ダイアログが表示された場合は、管理者から通知されたユーザーID/パスワードを入力します。

6　「ログイン」を選択します。

[画面 80]

7　確認メッセージが表示されるので、「OK」を選択します。



[画面 81]

8　「閉じる」を選択します。

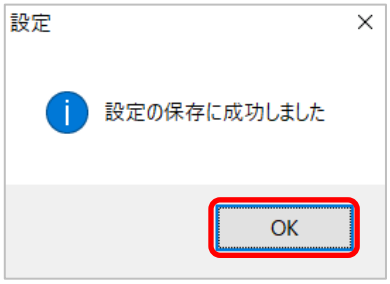
5.3.4 Windows 認証を使用する

Windows 認証はオンプレミス環境の場合のみ利用可能です。

1　「AddressLook Outlook アドイン設定」画面を開きます。
2　「サービス設定」タブを開き、「サービスの認証方法」に「Windows 認証」を選択します。
3　「設定する」を選択します。

[画面 82]

4　確認メッセージが表示されるので、「OK」を選択します。



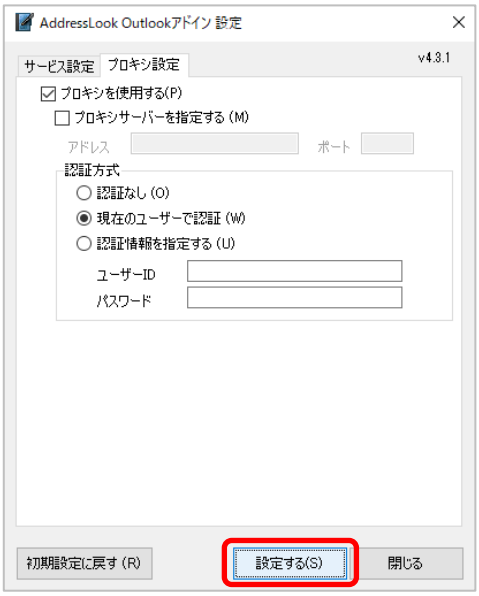
[画面 83]

5　「閉じる」を選択します。

5.4　プロキシ設定

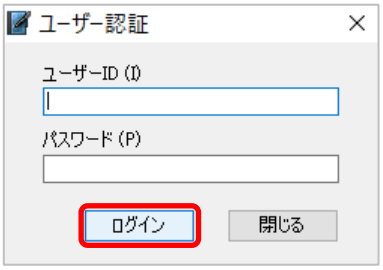
AddressLook のサービス URL にプロキシサーバーを介してアクセスする場合、Outlook アドインは個別にプロキシ設定を行います。
プロキシ設定の「認証方式」は、認証プロキシを利用されている場合に選択します。
プロキシサーバーが認証を必要としない場合、「認証なし」を選択します。

1　「AddressLook Outlook アドイン設定」画面の「プロキシ設定」タブを開き、管理者から通知された認証情報を設定します。
2　「設定する」を選択します。



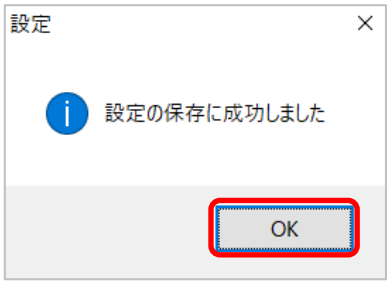
[画面 84]

3　ユーザー認証ダイアログが表示された場合は、管理者から通知されたユーザーID/パスワードを入力します。
4　「ログイン」を選択します。



[画面 85]

5　確認メッセージが表示されるので、「OK」を選択します。



[画面 86]

6　「閉じる」を選択します。

6. AddressLook ブラウザ版の設定

本章では、AddressLook のブラウザ版を設定する方法について説明します。
ブラウザ版は、Edge、Firefox、Chrome から使用可能です。ソフトウェア条件が整っていればクライアントモジュールのインストールは必要ありません。クライアント PC がソフトウェア条件を満たしていることをご確認ください。

6.1　サービス認証方式の設定

AddressLook を使用する際に、クライアントモジュールから使用者の認証を行ってサーバーに接続します。
Windows 認証の場合、ログイン画面は表示されません。

6.1.1 フォーム認証を使用する

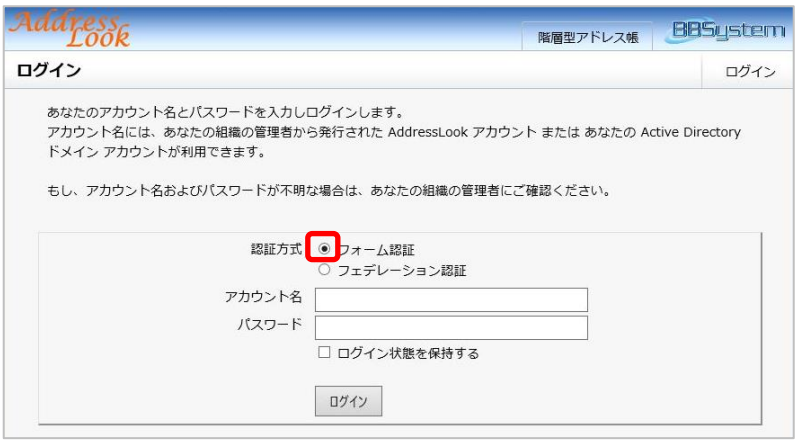
管理者から通知された、使用者のユーザーID/パスワードを入力します。

注意：アドインの認証情報の保持期間を超過すると、AddressLook に記録した認証情報がクリアされます。その場合、再度認証情報を入力してください。
認証情報の保持期間は、管理者が製品管理サイトより設定可能です。
また、アカウント情報の変更や、サーバー接続失敗などの原因により認証に失敗した場合も、AddressLook は認証情報をクリアします。

1　Web ブラウザを起動し、AddressLook ブラウザの URL にアクセスします。
- オンラインの場合：(例) https://www.addresslook.net/
- オンプレミスの場合：(例) http://<ServerName>/AddressLook

2　AddressLook ログイン画面が表示されます。
3　「フォーム認証」を選択します。アカウント名/パスワードを入力し、「ログイン」を選択します。

4　認証情報を残したい場合は、「ログイン状態を保持する」にチェックを入れます。この場合、次回以降のアクセスではログイン画面は表示されません。



[画面 87]

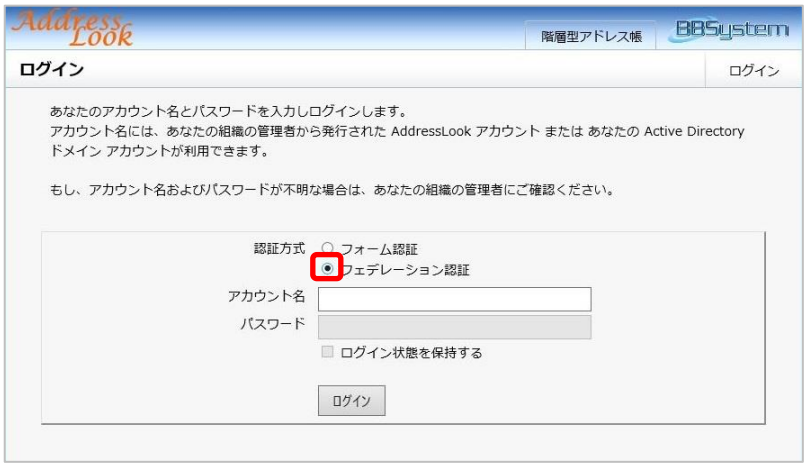
注意：ログインアカウントには、管理者アカウントと利用者アカウントがあります。
認証の保持期間を超過した場合、ログイン画面が表示され、再度認証情報の入力が必要になります。

6.1.2 ADFS 認証を使用する

1　Web ブラウザを起動し、AddressLook ブラウザの URL にアクセスします。
- オンラインの場合：(例) https://www.addresslook.net/
- オンプレミスの場合：(例) http://<ServerName>/AddressLook

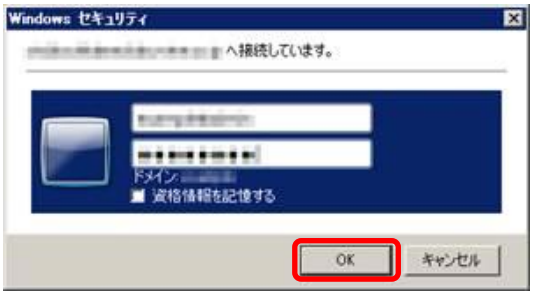
2　AddressLook ログイン画面が表示されます。

3　「フェデレーション認証」を選択します。アカウント名を入力し、「ログイン」を選択します。



[画面 88]

4　(ADFS プロキシを経由しない場合)Windows セキュリティ画面が表示された場合のみ、ドメインのユーザーID/パスワードを入力してログインします。
Windows セキュリティ画面が表示されない場合は自動的にログインされます。



[画面 89]

5　(ADFS プロキシを経由する場合) サインイン画面が表示されるので、ドメインのユーザーID/パスワードを入力し、サインインします。

[画面 90]

注意：ログインアカウントには、管理者アカウントと利用者アカウントがあります。
認証の保持期間を超過した場合、ログイン画面が表示され、再度認証情報の入力が必要になります。

6.1.3 SAML 認証を使用する

(1) Azure ポータルを利用する場合

1　Web ブラウザを起動し、AddressLook ブラウザの URL にアクセスします。
- オンラインの場合：(例) https://www.addresslook.net/
- オンプレミスの場合：(例) http://<ServerName>/AddressLook

2　AddressLook ログイン画面が表示されます。
3　「フェデレーション認証」を選択します。アカウント名を入力し、「ログイン」を選択します。

4　認証ダイアログが表示されるので、ユーザーID/パスワードを入力し、「サインイン」を選択します。

[画面 91]

(2) HENNGE One を利用する場合

1　Web ブラウザを起動し、AddressLook ブラウザの URL にアクセスします。

- オンラインの場合：(例) https://www.addresslook.net/
- オンプレミスの場合：(例) http://<ServerName>/AddressLook

2　AddressLook ログイン画面が表示されます。

3　「フェデレーション認証」を選択します。アカウント名を入力し、「ログイン」を選択します。

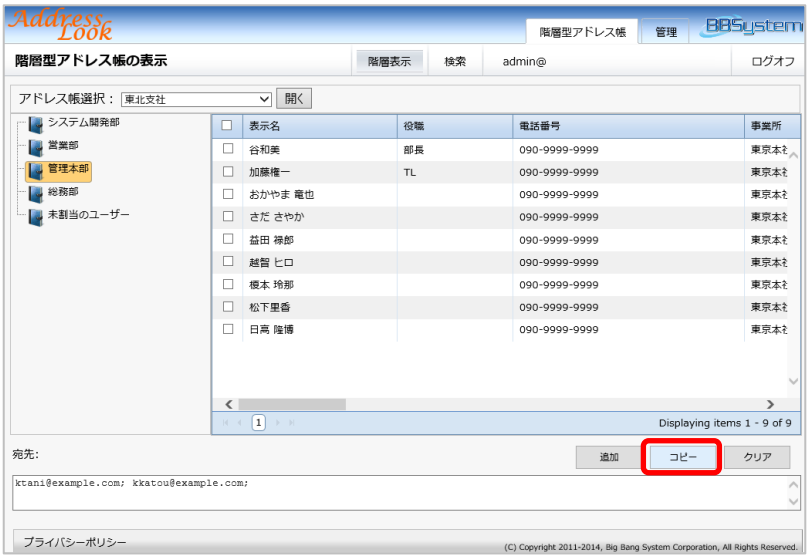
4　認証ダイアログが表示されるので、ユーザーID/パスワードを入力し、「ログイン」を選択します。

[画面 92]

6.2　コピーボタンの利用

AddressLook ブラウザ版では、製品管理サイトの AddressLook 設定により、宛先情報をコピーするボタンを表示することが可能です

コピーボタンの表示方法については、「2.管理者設定」をご参照ください。



[画面 93]

7. Outlook アドインの削除

本章では、AddressLook の Outlook アドインを削除する方法について、手順を記載します。

1　コントロールパネルを起動します。

2　プログラムの追加と削除の一覧から「AddressLook Outlook AddIn」を選択し、右クリックメニューから「アンインストール」を選択します。

[画面 94]

3　確認ダイアログが表示されるので「はい」を選択します。

[画面 95]

4　アンインストールが開始されます。

以上